

平成23年度 第7回 宮前区区民会議 議事録

- 1 日 時 平成24年2月22日（水）午後6時
- 2 場 所 宮前区役所 大会議室
- 3 出席者
 - (1)委 員 山下委員長、恒川副委員長、直本副委員長、大村委員、河井委員、久保委員、佐藤委員、豊島委員、中村委員、平井委員、藤田委員、吉田委員、持田委員
 - (2)参 与 竹田参与、持田参与
 - (3)事務局
- 4 次 第
 - 1 開会
 - 2 議事
 - (1)「第3期区民会議 提案（案）」について
 - ア 専門部会からの報告
 - イ 意見交換
 - ウ 第4期以降に向けて
 - (2)宮前区区民会議フォーラムについて
 - 3 その他
 - ・第2期区民会議提案事業の進捗状況
 - ・平成24年度地域課題対応事業 計画（案）
- 5 傍聴者数 3人

午後6時開会

司会（板橋） それでは、定刻となりましたので、これより区民会議を開催いたします。本日の進行につきましては副区長の板橋が務めますので、よろしくお願いいたします。

まず、会議開催に先立ちまして事務連絡をさせていただきます。

本日の会議開催に当たりまして、この会議につきましては川崎市審議会等の会議の公開条例に基づき公開とさせていただいております。したがって、傍聴、取材が可能となっておりますので、ご了承いただきたいと思います。また、会議録の作成に当たりまして速記者に同席をいただいておりますので、こちらのほうもよろしくお願いいたします。そして、本日発言のございました方々につきましては、後日ご確認をさせていただきたいと思いますので、こちらもよろしくお願いいたします。また、傍聴の方々につきましては、入場時にお配りしてございます遵守事項をお守りいただくようお願いいたしますとともに、本日の会議に関するアンケート用紙をお帰りに提

出していただきたいと思います。

次に、本日の委員の出欠状況等について報告いたします。区民会議委員につきましては、あらかじめ高橋委員から事前に欠席される旨のご連絡をいただいております。また、参与につきましては、現在竹田参与がご出席をいただいておりますので、報告をさせていただきたいと思います。

続きまして、本日皆様方のお手元に配付してございます資料の確認をさせていただきます。

まず、本日の会議次第ですが、訂正がございまして、議事のところでございますが、(1)の次に「(3)宮前区区民会議フォーラムについて」となっていますが、大変恐縮でございます。これは(2)でございますので、訂正をお願いいたします。

続きまして、別紙1といたしまして座席表でございます。別紙2でございますが、名簿でございます。

続いて、議事資料でございますが、資料1、宮前兄妹が書いてあります第3期宮前区区民会議報告書(案)でございます。資料2は、3月24日に予定しております宮前区区民会議フォーラムの進行についてでございます。参考資料1、みやまえ坂道ウォークのイメージで、カラー刷りのものがございます。参考資料2、今、議会で予算の審議をいただいているところでございますが、来年度の地域課題対応事業の計画案でございます。

以上が本日の配付資料でございますが、不足等がございましたらば、よろしいですか。大丈夫でしょうか。

1 開 会

司会(板橋) それでは、これより第3期宮前区区民会議第7回全体会を開催いたします。

初めに、開会に当たりまして、区民会議の事務局を代表いたしまして区長よりごあいさつをさせていただきます。よろしくお願いいたします。

区長 こんばんは。大変寒い中、またお忙しい中、この第7回の区民会議にご出席いただきまして大変ありがとうございます。

本日は、平成22年度から2年間の任期ということで、さまざまなご議論をいただいた第3期の区民会議も最終の会議となりました。そういった意味では、これまでの議論を踏まえまして、締めくくりとして提案をぜひまとめていただきたいと考えております。

また、この第3期の提案に当たりましては、活力づくり部会ではみやまえ坂道ウォーク、地参知笑部会ではみやまえ情報サポーターズ養成講座について取り組みが進ん

でいると伺っているところでございますが、皆さんの忌憚のないご意見をいただければと考えております。

それから、参与の皆様におかれましては、この間も区民会議を温かく見守っていただけてきたところでございますが、これまでの会議を振り返りまして、ご助言などいただければありがたいと考えておるところでございます。

きょうは2年間の総まとめでございますので、活発なご意見をお願いいたしますし、簡単ですが、あいさつにさせていただきます。よろしく願いいたします。

司会（板橋） それでは、これからの進行につきましては山下委員長によりしくお願いしたいと思います。

2 議 事

(1)「第3期区民会議 提案（案）」について

ア 専門部会からの報告

山下委員長 ただいま区長からお話のありましたように、今回が3期の区民会議の最終の全体会でございます。きょうの議事を踏まえまして、3月の中旬に区長あてにご報告を差し上げたいと思います。3期の委員の方々、本当に今までご苦労さまでした。恐らく半数の方はまだ4期に残ると思いますので、引き続き頑張っていたきたいと思っております。

それでは、議事に入りたいと思います。本日の議事は第3期区民会議提案（案）の確認と、宮前区区民会議フォーラムがございます。その2点について議事を進めたいと思います。

先ほど説明のございました資料1、区民会議報告書（案）がございますが、それをもとにしまして、この資料1は第3期の最終的な提案になります。表紙をめくりますと目次がございます、内容は大きく第3期宮前区区民会議からの提案、第3期宮前区区民会議の審議経過、第4期以降に向けて、最後に資料編に分かれています。先ほど申し上げましたように、本日はこの提案について最終的な審議の場となりますので、時間の許す限り多くの委員の皆様からコメントなどもいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは最初に、活力づくり部会の提案につきまして佐藤部会長からご報告をいただきたいと思います。佐藤部会長、よろしく願いいたします。

佐藤委員 こんばんは。坂道の活力部会の説明をさせていただきたいと思います。ただ、お時間も制限がございます、今まで何回かの全体会で説明をさせていただいた部分については割愛させていただければと思います。こちらの報告書の8ページの説明に入らせていただきたいと思います。

7ページまでは前回説明をさせていただきましたので、8ページですが、最後の部会で、イベントの工夫ということでいろいろな意見が出ましたけれども、最終的には区民会議は実行部隊ではございませんので、このような提案を出したというところで、企画運営上の工夫は数多く盛り込んでおります。実際にやっていただく方が決まりましたら、ぜひこの提案に出たものを活用していただけたらなと思っています。

前回の全体会で質問に答えることができませんでしたが、高齢者の方への配慮というところで質問を最後にいただきましたが、その部分についても話し合いを行いました。結果、高齢者の方だけではなく、若い人でも本当に運動不足の方がたくさんいて、私その代表みたいなものなのですから、歩いても結構息が上がってしまったり、ウォーキングの方法をきちんと教えてもらえば簡単に疲れもなく歩けるといふところがあります。そのための体操教室とか、ウォーキング教室と連動して、高齢者の方でも無理がないように参加できるようなことをしたい。また、イベントは、幾ら体力がある人でも坂というのは結構大変だと思いますので、イベントのときもそういう配慮をすることと、休憩場所をガイドブックにもたくさん盛り込んでいますので、そこら辺に注意をしていただきながら無理をしないということもガイドブックに載せております。

提案の説明はそのぐらいで、みやまえ坂道ウォークのガイドブックの説明ですけれども、大体の案が出まして、写真に関しましては、つくっている間の季節に限られていたのでワンシーズンの写真にはなっているのですけれども、実際には宮前区の写真のコンクールから写真を使わせていただいたりとか、写真には四季折々の内容を盛り込んでいきたいと思っております。

どうしても健康に着目しがちになってしまうので、ガイドブックの8ページ目ですが、公園体操という第1期区民会議からの提案と連動させるという意味と、体操とかウォーキングだけではなく、コミュニティも大切にしていきたいということなので、この準備体操として公園体操に参加した後に歩いていただけるように、公園体操の紹介も入れさせていただいております。

そのほか前回と変わったのは、宮前区誕生30周年を祝うためのキャラクターを使うことにいたしました。この間まではカッチャンが書かれていましたが、こちらの2つのキャラクターのほうがかわいいのでということで、こちらを採用させていただくことになりました。

あとは、最後のほうのページになりますが、白紙の欄がある、35ページです。こちらはまだ確定し切れていないところですが、ガイドブックの中にスタンプコーナーを設けて実際に回っていただいたり、ゲーム感覚で楽しんでもらえる仕組みをつくろうということですが、具体案までは出ていませんので、ここは空欄になっておりますが、いずれこちらにも工夫がされる予定になっております。

最後は37ページですけれども、みやまえぼ一たろうさんのほうにも坂道のことが書いてありますので、岡田委員はきょう来ていらしていないですけれども、そちらのほうに掲示板とか、いろいろなものがありますので、そこを通してコミュニティを持っていただいたり、みやまえ情報サポーターズのホームページとか、いろいろなものが決まってきたら、そちらとのタイアップも考えたいと思っているのですけれども、今の時点ではそういうものがないので、ぼ一たろうさんのものが書かれています。

早いですけれども、ざっとこんな感じで活力部会のほうは説明を終わらせていただければと思います。

山下委員長 どうもありがとうございます。ここで皆さんのご意見や何かがあるかとも思いますけれども、地参知笑部会の説明を経まして、その後で行いたいと思います。

それでは、持田部会長、ひとつよろしく願いいたします。

持田委員 それでは、続きまして、地参知笑部会の現在までのところを説明させていただきます。前回まである程度説明させていただいていますが、大まかですが、最初のほうから説明をさせていただきたいと思います。

まず、コミュニティへの参加を促す雑誌と情報戦略に関する提案で、9ページでございます。転出入者や宮前都民と言われる方が多い新しい区民の皆さんに、いかに宮前区を知ってもらい楽しんでもらうかということで、地域のなじみの薄い住民、情報が伝わっていない住民に対して効果的な情報を通じて宮前区の魅力やまちの楽しみ方をもっと知ってもらう、宮前区に愛着を持ちコミュニティに参加してもらう、宮前区を単に「住む」まちから「暮らす」まちにしてもらうためにはどうしたらよいかということで、地参知笑部会は2つの提案をまとめました。

今ちょっとお話をさせていただきました、宮前区を単に「住む」まちから「暮らす」まち、これが大変いい文句といえますか、これを前面に出していければというふうにやってまいりました。

提案であります、提案①といたしまして、まず、宮前区の魅力や楽しみ方を発信しようということで、興味を持って読んで、実際に手にとってみて、そこに行きたくなるような、地域コミュニティへの参加を促す雑誌の作成ということで進めてまいりました。この雑誌のコンセプトは、①コミュニティへの参加を促すものとする、②項目ごとにターゲットとなる読者を明確にする、③個々人がほしい情報をわかりやすく伝えるということで、今までは受け手であった人たちに新しく加わっていただいて、その人たちにこの雑誌をつくってもらって、今までこういうものが欲しかったんだというものを実際にこちら側で今度はつくっていかうということで、これから進めていきたいと思っております。

12ページです。コンテンツのイメージとしては、1、世代別レポート、2、体験できるページ、3、ゲーム等、4、ガイドブックのガイド、5、宮前区のプロフィール

ル・概要ということで、この辺をコンテンツとして作成していければと思っていますが、この中で、先般の部会の中で詰めていった中でちょっと変わってきたものがございます。3のゲーム等の中のスタンプラリーで、ここにも明記はしていますが、「実際にスタンプや表示板を設置するのは、コストや管理上の課題が生じることから、謎解きゲームが良いと考えられます。例えば、影向寺に行かないと解けないようなクイズを、講座参加者が実際に現地に行って作成します。それにより、地域資源を知る契機にもなります」ということで、コストや管理上の問題から、できたら謎解きゲームがいいのではないかとというふうに部会の中では話が出ております。

この雑誌を作成するに当たりまして、スケジュールとしましては、13ページですが、24年の3月から公募を開始していくわけですが、この作成協力というものがあつまして、これをつくるに当たって一番必要なのは、やっぱり人材、人ということで、ここに「雑誌作成にあたっては、講座において雑誌の趣旨を理解してもらったり、受講生が取材する人・場所や、地域資源についてのアドバイスをしてもらうなどの協力が必要です。地域に精通した区民会議委員が、これらを紹介するなどの協力をするものとします」と出ております。ぜひここに参加の皆さん、また、行政の方々、ぜひ皆さんの協力をいただいて、いいものをつくっていきたいと思っています。よろしくどうぞお願いいたします。

続きまして、提案②で、宮前区の地域情報を戦略的に発信しようということで、39ページを開いていただいて、先般ちょっと説明をさせていただきましたが、ここにあります市民館と提携をして、まず、みやまえ情報サポーターズの養成講座を約15回に分けて設けて、ここで講座を受けていくことによって最終的に雑誌ができ上がるということになります。ここで最終的に雑誌ができ上がって、そこに参加していただいていた方々に、参加していた方、受講生の有志を中心に活動に関心がある人を募り、雑誌作成後も継続的に情報発信する、みやまえ情報サポーターズを結成して、宮前区の中のいろいろな情報等を提供していこうということになります。14ページの右下のところイメージが出ておりますが、まず、ソーシャルメディアで動画の配信等々も行えれば、また、紙媒体で歳時記や、今回つくる雑誌等の、また何年か後に改定がされていく中で、そういうものの作成にも携わっていければということでもあります。

ここでちょっと1つ課題が残っているのが、15ページのところにございます、情報サポーターズをつくるのはよろしいんですが、最後に、では、この情報サポーターズ、受け皿はどこということになりますが、これが16ページに出ています「みやまえ情報サポーターズの状況、受け皿となりうる組織の有無、区役所との関係などの各要素を整理し、メンバーが活動しやすい環境をつくる必要があります」ということです。

実際に講座を開いて集まってきた人たちがどのような形でその後続けていくかによっ

て、できれば区役所にできるだけコーディネートをしていただいて、いい形でその人たちが活動できる状況をつくっていきけるようにということで、努力をしていこうということなんです、それはメンバーが集まってみないと、どんな形がいいかはわかりませんので、ここではこんな形というふうには決めることはできないということです。

最後に、今まで各機関でいろいろな雑誌ができています。その各機関で大変すばらしいものができていますが、私たちはいかに興味を引くものをつくろうかということで、私たちがつくるものは役所が出すものと違って、もしかしたら一番のライバルは「るるぶ」ではないかと思っております。もしかしたら私たちがつくることで「るるぶ」の売り上げが落ちるのではないかぐらいの意気込みで、こういうものができればいいかなと思っております。

イ 意見交換

山下委員長 ありがとうございます。

2つの専門部会の議論内容について、それぞれの部会長から報告をしていただきました。

それでは、これから各委員の方の両部会の報告について補足説明なり、あるいは、お互いの部会で確認したいことなど、それぞれの委員からご発言いただければありがたいと思います。どなたかご発言ございませんか。

では、部会長から何か補足するようなことはありませんか。

佐藤委員 今後の課題についてですが、報告書の6ページになります。やはり活力部会のほうでも課題ということで残っていることがありまして、今回、18の愛称のついている坂だけを使ったということで、6コースになっていますけれども、当時、犬蔵地区とかの開発がされていなかったの、坂の愛称がありません。いろいろ議論をする中で18に絞ってはみましたけれども、そこに日常的に取り組んでいただくということは、犬蔵の方は犬蔵の近くで取り組むことが一番かなと思っております、今後、この坂道ブームが宮前区で起こるように皆さんと頑張っていきたいと思っておりますけれども、起こりましたら、犬蔵のことの再検討とか、そのほかにも、本当にこの情報に載せるには、宮前区にはたくさん歴史があるんですけれども、泣く泣く削った部分が大分多くあります。道沿いに本当に歴史あるものがたくさんありますけれども、写真を載せる都合上とか、ごちゃごちゃしないようにということで大分削りましたので、そちらにある資源とかも、いずれ知ってもらえるような方法、イベント等とか、そういうところで検討課題として上げていけたらというふうにしております。

山下委員長 確かに今のご発言のように6つのコースがありますが、犬蔵とか、そういったものは抜けていまして、要するに、尻手黒川沿いの清水台のほうに向かうあの辺が

ちょっと欠けているかなという気はしています。その辺は、また出てから皆さんの反響を見て進めたいと思います。

直本副委員長 活力づくり部会のほうはかなり進んできていますが、実は、これはまだ発行部数についてはっきりしていません。ただ、感触としては、目黒でも相当発売部数がふえているように、宮前区でも相当いい評判をとるのではないかと考えておりました、少し印刷してもすぐなくなってしまうのではないかと考えて、どのぐらい印刷が可能なかなんていうことを、最近になってでき上がりつつある段階になって、ちょっと疑問に思っているところですので、その辺、来年度になるかと思いますが、予算との関係もあると思いますので、ご協力のほどをお願いしたいと考えております。

山下委員長 ありがとうございます。

地参知笑部会は何か補足するようなことはございませんか。別にありませんか。

持田委員 補足ということではありませんが、先ほど説明させていただいた39ページにあります、このサポーターズの募集のチラシとプログラム、これはぜひ皆さん、最初のほうはもう日にちも入っています。4月17日に申し込み開始というふうに入っています、定数20名、先着ですので、すぐ埋まってしまうかなと思っていますので、皆さん、できるだけ早くお申し込みしていただければと思うんです。

実際ここに出ていますプログラムの1でオリエンテーションということで、これは、この講座に初めて参加する方々に今までの区民会議での議論がどういうものか、どういう雑誌をつかってほしいかという説明もしなくてはなりませんので、第3期の区民会議の委員の方には、もしこの養成講座、全部には参加できないけれども、ここは参加できるよというものがありましたら、そこでまたご意見をいただきたいと思いますので、ぜひ出席をお願いできればと思います。

それと、すみません、佐藤委員に1つ質問です。参考資料1のイメージの写真の一番上はどこから撮った写真ですか。お願いします。

佐藤委員 一番上の富士山ですか。これは見晴らし坂の上から撮りました。目次の下に書いてあるんですけども、目次の一番下に、写真は上から時計回りに見晴らし坂、さくら坂ではなくて春待坂かなと思っていますけれども、あと鷺沼北公園という形で。2番は多分さくら坂ではなくて春待坂かなと思っています。見晴らし坂は、これで言うと10ページの⑤のコースですかね。五所塚の上の結構な急な、何回も折り返すような坂がありますけれども、その上から。

これも補足ですけども、見晴らし坂も一番上に行って、ちょうど五所塚公園のところから出たところがベストな絶景ポイントですね。ちょっと下の道にずれてしまうと、ここまで富士山がきれいに見えないので、コースをめぐるときは、ぜひ五所塚の公園から出て下がって行ってほしいと思っています。

山下委員長 地参知笑部会の方、この冊子を見まして、この坂道を上りたくなるかなと。

その辺のご感想はいかがでしょう。

久保委員 子どもと歩こうと思いました。

佐藤委員 あとは、バス停を載せたらどうかという話も出てました。バス停名を載せなくてもバス停のマークだけでもというのが、ちょっと出ていましたけれども、そうすると地図の中でわかりづらいなということで結果的に載せていないんですけれども、またそこら辺とかは、会議が終わった後、ご意見がありましたらお聞かせ願えればと思います。

あと、11ページ、12ページのところですが、全部回ると結構疲れてしまうので、坂を回りながらショートカットできるように、ちょっとわかりづらいたくけれども、地図上にショートカットを載せさせていただいて、少し距離を短目にして、体力のない方でも回ってもらえるような仕組みづくりは入れさせていただいています。

持田委員 地参知笑部会から、抜けているものがありましたので、お伝えさせていただきます。

養成講座のプログラムですが、講師の方はここに出ているとおり2名の方が決まっております。第2回目の5月17日、木曜日、これは「マイタウン」の岩倉編集長という方が講師をしていただけます。講師紹介が真ん中の四角の中に出ているんですが、読み上げさせていただきます。「地域情報誌+サイト『マイタウン』などの(株)エリアブレイン代表。新百合ヶ丘のまちの魅力発信のため日々奮闘。NPO『しんゆり・芸術のまちづくり』企画委員」ということで、岩倉さんに講師をしていただきます。

その後はタウンニュースの記者、原田さんに講師をしていただくことになっています。原田さんは「県内全域と町田市、およそ221万部を発行する(株)タウンニュース社、川崎支社支社長。『報道を通して社会貢献』を、『情報を通して豊かな生活』を皆さんに届ける紙面を作り続けている」方です。このお2人の方に講師をしていただきます。

それから、その下のところですが、この講座の対象者など、ちょっとまた説明をさせていただきますと思います。

まず、対象は宮前区内の情報発信に関心のある方20名、会場は宮前市民館ほかということで、ほかというのは取材活動で表に出てしまうこともあるということで、ただ、活動の範囲は宮前区内になります。参加費は無料(ただし、取材活動での交通費は自己負担)になります。それと、これは部会のほうで、お子さんを持っているお母さん方がもし参加をしたいときは、保育ということで、1歳半以上の未就学児(要申し込み)につきまして、保育保険料等の金額が出ておりませんが、これは至急調べまして、これをやる時には出席される方にはお知らせを申し上げます。取材で表へ出るときに関しては保育はありませんということで、4月17日、火曜日、午前10時から

申し込みを受け付けることになっております。申し込み先は市民館ですので、よろしくをお願いいたします。

山下委員長 ありがとうございます。ほかにどなたか、これを見てどうかというお話はございませんか。

では、私から申し上げますと、座間の場合はいろいろな事例を挙げて、あるいは、私どものほうに、ここの場所に見えてご説明いただいて、非常にそういう行事のやり方等については参考になりましたが、目黒区の例でいきますと、この冊子を出して、当初2000部刷ったということです。しかも目黒区の場合は無料ではなくて200円を出したということ。ずっと200円を出しているわけです。ところが、2000部というのはすぐ売り切れてしまって、また3000部追加したらそれも売り切れてしまって、4刷目でようやくまた1万部になって、これもずっと200円で売っているということです。だから、あるいはヒットすればお金を出しても買うのではないかなという気はしますが、こういうものが健康づくりで、私は絶対にいけると思うのです。

あるいは、宮前区で「住む」から「暮らす」へという中で、これを非常にアピールすれば、宮前区の住民のためにも、こういう坂を利用して何かするということができてくるのではないかなという気はします。そういう意味で、どんどん部数は伸びるのではないかなということで、予算をまた考えていただこうかなというのがあります。ひとつよろしくをお願いいたします。

大村委員 地参知笑部会の方に質問と辛口の批判をさせていただきます。

お聞きしていて、雑誌の目次は決まったけれども中身が見えないです。随分時間をかけてやったと思いますけれども、坂道のほうは一応こういうふうなアウトプットができましたけれども、地参知笑部会はアウトプットが見えないです。それをどういうふうに考えますか。

全般的に、私は去年の5月だったか6月ぐらいから区民会議に参加させていただきましたけれども、その前の第2期の区民会議の提案があって、その中で公園を知ってもらおうとか冒険遊び場、それからもっと公園を楽しもうというような提案がいっぱいありましたけれども、提案はものすごく立派です。皆さん、優秀な方がそろっていらっしゃるから。提案報告書を見て、ああ、なるほど、これは立派なものだと思いますけれども、プラン、ドゥー、アクション、チェックというプロジェクトの流れの4つのステップの途中でとまっているような感じがします。せっかくプランはできても、ドゥーもない、アクションもない、そんな感じがします。

特に今回、地参知笑部会の中身が見えてこない。それを次期に委託しようとしている、その辺の真意のほどを聞かせていただきたい。

持田委員 ありがとうございます。

私たちが進めていく中で形が見えてきていなかったのは実際そうですが、私たちは

実行部隊ではない。提言までです。こちらの会議を受けて、またその後の実行部隊で、いつまでもこの会から抜けられないというところが実際はあるんです。

そこで、きょうもう少し細かく説明をすればよろしかったのですが、ここにあるコンテンツを見ていただきましたが、文字だけではなくて、活力づくり部会がつくった参考資料1みたいなもので、こういう雑誌をつくりたいというイメージをお見せできると、多分雑誌の内容が見えてくるとと思いますが、ただ、実際のところ、それをつくってしまうと、もうそれがイメージになってしまいます。

高橋委員がそういうものをつくられるのが非常に得意で、一回こんなものがないのではないかと見せていただいたのですが、私は、もうそのイメージであの雑誌というものしか浮かんでこないのです。だから、その雑誌自体を皆さんの目に見えるものでつくってしまうと、どうしてもその一方に行ってしまうのではないか。ですので、文字で起こしたもので、次の養成講座の中で新しく加わった方といろいろ話をしながらつくり上げていこう。ただ、コンテンツが決まっていますので、まるっきり違う方向にはいかない。太い線の中でもっと見てもらえる、こっちのほうがいいやといったら、それは多少変更はあるとしても、自分たちが決めていたコンテンツの中で、イメージで進めていただくということにはなっています。

久保委員 冒険遊び場のことも出たので、それとあわせてちょっとお話ししたいと思いましたが、やはり区民会議だと提案なのです。実際にその提案をもとに動いていくのは区民の皆さんになりますけれども、いかに区民の皆さんに区民会議のことを自分のこととして伝えるか。また、それを形にしていくか。

冒険遊び場の場合は今年度、講座をやっています。講座の中で、冒険遊び場は子育て世代にはすごくびんとくる文言ですけれども、それ以外の世代にはなかなか受け入れられないというのは、シンポジウムなどをやってみると何となくわかってきます。それで、講座の中でお母さんたちにも、その思想というか、目的とか、そういうものを伝えながら、お母さん自身が育っていく時間が必要なのです。

今回は冒険遊び場はやっと1年かけて2カ所、お母さんたちの自主グループが立ち上がるような形になっていまして、また来年度は場所を変えて、もうちょっと担い手を掘り起こす講座と、あとサポーターですね。後で紹介しようと思っけていますけれども、3月のブラッシュアップ講座というものがあまして、そこは担い手だけではなくて興味がある地域の人に来てもらって、そこでロープワークとか公園の遊びというものを知ってもらう。それで、自分がかかわれるなとか、そういう細かい下積みをしていかないと、上からこうしなさいよ、やりますというのはなかなかなくて、本当に育てていくところが冒険遊び場ではすごく感じられたことです。

今回この情報誌をつくるに当たっても、私たちの理想でこういう雑誌をつくって

ださいというふうな投げかけがいいのかどうかというところでは、掘り起こしもあるのです。なかなか地域に目がいかなかった人たちにも雑誌とか編集とか、そういうところを、もうちょっと宮前区を知ってほしい人を集めて、その人たちがまたいろいろ学びながらやっていくことで、私たちにはない発想、それこそ身近な、今まで川崎都民だった人の発想を入れていくような雑誌をつくったほうが目的に合うのではないかなというものもありました。なかなか今の段階では見えてこないから、もしかしたら失敗してしまうかもしれないものはあるかもしれませんが、担い手を育てながら、もっと宮前区を知ってもらおうというような提案になっているのではないかなと思います。

山下委員長 冒険遊び場にしろカルタにしろ、結局2期の提案が3期の今ごろになって完成してきたということですから、提案から次の期に完成するというのが、2期の方法を見ていますと、区民会議は提案ということだけで、3期でこういうことが決まれば4期の間にできてくればいいのかというタイミングの問題はあります。ただ、活力づくり部会で第3期の区民会議の間にこれだけのものをつくってしまうと、活力づくり部会のほうは気分的には非常に楽なのではないかなという気はしますが、これも続いて4期で、後に実行の段階でまたいろいろ出てくると思いますので、またこれを完成させるという意味でつくっていかなくてはいけないという気はします。

こういう話についてどなたかございますか。

直本副委員長 実は、区民会議の委員さん、私も含めてですけども、非常に疑問に思っていることがあります。といいますのは、1期の方は提案が多かったので実行部隊の動きになっていなかったようですが、2期の区民会議の委員さんは、私どもが見ている3期の始まった後もずっと活動を継続されている。それがまだ終わらなくて、2期の区民会議の委員さんは2期で提案されたことに、またさらにこれから先もかかわっていかないといけないような状況になっている。私ども3期の区民会議の委員が、また同じような形でいくと、4期、5期とほかの方が区民会議の委員さんになっている間に、また私どもの活動がずっと継続して重複していくような形になるということは、区の行政の方にとってもかなり負担になってくることですし、区民会議の委員にこれから新たになる方にとっても、自分たちが提案したことにとずっと最後までというか、区切りなくかかわらなければいけないのかなということは、かなり負担になってしまうといったようなことも、いろいろ懸念されて話し合いがなされました。

もちろん区民会議の委員が実行部隊ではありませんので、全部実行するということではありませんけれども、ただ、区民会議の委員の段階でできることについては、できるだけのこととしておこうと。ただ、内容につきまして、その期の中でできない内容については、今、地参知笑部会で提案しているような形で実行部隊を、いわゆるサポーターという形をつないでいって、それを継続していただくといったような方向も

必要なのではないかなといったようなことから、地参知笑部会の提案という形になりました。

活力づくり部会のほうは比較的現実的なテーマでもあったといったことから、次の方に、あるいは現在の3期の区民会議の委員がまた重複して継続的な活動を強いられるという部分をできるだけ少なくしようということで、今の3期の委員の段階でできるだけのことはやろうということで、部会長さんを中心にしてこれだけの資料の方向づけができたということでございます。

したがって、区民会議の次年度のあり方にもかかわってくるかと思いますが、どういった形でどの辺まで私どもが区民会議の委員としてやる必要があるのかといったようなことも含めて、次年度さらに検討させていただく必要があるのではないかなと思います。

持田委員 先立って行われた交流会の中で、最後に市長さんのあいさつの中に、提案もして実行もしてくれてというような発言があったかと思いますが。では実際に提案をしたらやらなければいけないのかなというふうな、私の中ではそういうふうな意識の変化がありますが、もしそのような発言がなかったとしたら大変申しわけありませんが、市長さんのほうからそんなような話があったように私はとらえたので、今後変わっていくのかなというふうにも思っています。

山下委員長 市長さんがどういうふうに言われたか、ちょっと私も思い起こせないんですけども、要するに、区民会議の提言はそれ以降で実現されていくように向かないといけないのではないかなというふうには思います。この区民会議自体が宮前区あるいは区民のためにあるわけですから、そここのところの目標を間違えないで、手段とか手続は別にして、「住む」まちから「暮らす」まちですよという思いでやってきているわけですから、いつの段階かではこれが実現できなくてはいけないのではないかなと思います。そういう方向でこれからいったらいいのではないかなという気はしています。

持田委員 質問の回答になったかどうかですが……。

大村委員 わからないですが、冒険遊び場の件が出ましたので一言言わせていただきますと、私も冒険遊び場の委員を募ったときに手を挙げて、私は落選をしまして携われませんでした。私なりに仲間と一緒に東京都の羽根木とか大田区の公園とか、横浜も見に行きましたが、全然レベルが違います。向こうはNPOとか、そういうところでちゃんとやっています。隣の高津区だって、ここで発表があったようにちゃんとやっています。ところが宮前区は非常にプアです。予算もとっていない。NPOをセットアップするような方向が出ていない。だから、この前の第2回の冒険遊び場を広めようという提案で、NPOを立ち上げて持続するんだよというような提案にすれば区も動いたかもしれないけれども、何か遅々として実行に移されていない。区民会議が不発

に終わっていると思います。

そういった面で、地参知笑部会も今後どうなのかわかりませんが、皆さんがどう携わっていくのかもわかりませんが、とにかく時間をかけてやった割にはアウトプットが少ないと思います。

恒川副委員長 大村委員の言うのも一理あるように思います。ただ、区民会議って何かということを考えますと、いわゆる審議、提案というんですか。坂道のほうは具体的にこういうものができたので、では、地参知笑部会もどうだいというように受けとめられると思いますが、やはり我々のところでも、直本副委員長が言ったように、どこまで引きずって参加しなければいけないのかという議論もあったわけです。とりあえずは3期については、きょうの全体会議で役割としては一応終わりです。

そういうような区切りを考えていくことが1つと、もう一つは、いわゆる地参知笑、名前のとおり歴史的なものだとか、いろいろなものがある、それから年代別の問題もある、あるいは、いろいろなところから、行政から出ている冊子もたくさんある、そういうもろもろの問題を今後どう煮詰めていくか。いわゆる区民目線での雑誌をつくっていく、その参加の仕掛けづくりが地参知笑の限界であったのかなと思っております。

区民会議からNPOの設立をとか、そういうような提案まで踏み込むというのはいかがなものかなと私は個人的には思っております。区民がどうやって担い手になっていくか、宮前区を知っていただくか、そういうような仕掛け、それから、既存のいろいろな資料を区民の方が目に通せるような仕掛けを考えていくことが3期での限界ではなかったのかなと、個人的にはそのように思っております。

山下委員長 そろそろ時間が押してきましたので、この辺の議論は、宮前区というよりは区民会議自体の問題も入っているかと思いますが、これを具体化するに当たって実態はどうなのかということまで、その辺が非常に問題になってくるのではないかなという気はします。ただ、私どもとしては、今までのお話は2年間にわたって検討してきたことが集約されているわけですから、まずこの辺で一応まとめて、いろいろな区民会議についての議論の点は4期の方に引き継いでいただいて、また4期の最初の段階でもう一度検討していくのがよろしいのではないかなという気はします。

これも先ほど申し上げましたように、提案としてまとめていきたいと思っております。3月中旬の区長への提案にまとめていきたいと思っております。この提案が実効性のあることを期待して、この議論は終わりたいと思っております。

ウ 第4期以降に向けて

山下委員長 続いて、議論としましては、この提案に含まれる項目で、ウの第4期以降に向けてに移りたいと思っております。

第3期の区民会議の運営の反省点を第4期に引き継ぐために、昨年末、各委員にアンケートをお出ししました。この中で、この報告書の中の後半の部分のところに大分詳しく書いてありまして、私も、なるほど、そうだなと思う点もございますので、これの説明を恒川さんからお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

恒川副委員長 私から説明をさせていただきます。

25ページ以降になります。25ページを開いていただけますでしょうか。第3章、第4期以降に向けてでございます。

今、山下委員長からお話がありましたので、また今のいろいろな議論を聞いていますと、これに重複するような感じがいたしますが、とりあえず3期の区民の委員の皆さんにアンケートを実施した内容でございます。

まず、第1の地域課題の把握方法。まさに今、大村委員から出た問題と共通する面があるのではないのかなとは思っています。第3期の区民会議の運営について評価できる点と、第4期以降において改善すべきと思われる点について質問したところ、主に次のような意見が出されました。

第1の地域課題の把握方法については、第3期区民会議委員は初参加と2期目の委員がほぼ半数であったこともあり、改善すべき点として理解を深めるには時間が不足していたのではとの感じを持っております。そして、その理由として、初参加と2期目の委員では地域課題把握の度合いが違い、対策として、基本形をマニュアル化する等をして共通認識を早く確立して、地域課題の掘り起こしの工夫が必要だったのではないのかなと思っております。

評価できることとしては、18ページ真ん中の左側、これだけ委員の方がいろいろな意見をたくさん出していただきました。そして積極的なテーマを議論したということです。これが実態の議論の状況でございます。意識共有、審議テーマ抽出のためのグループワークというものがこの状況でございます。

そういう意味では、きょうも感じていますが、皆さんの意見は非常に積極的であって活発でよかったなど。ただ、最後になって共有意識がこれでできたのかな、どうなのかなという部分については、やや疑義があるなというように反省しております。

2の審議対象課題（優先順位付け、分野、課題の数など）ですが、スタート段階で審議テーマ抽出グループワークでは4つのテーマに絞ったと思っております。①が緑や農業、商業における地産地消、②が坂を生かした健康・体力づくり、これが残っているわけです。③が市民活動をしやすくするための横の連携づくり、④が町内会・自治会の活性化。いかに担い手だとか、宮前区のいろいろなことを知っていただく仕掛けづくりをやるかということではなかったかなと思います。そして、その4つのテーマについて投票だとか意見交換をやりまして、最終的に地産地消を通じた地域づくりと、坂道などの地域特性を逆手にとった活力づくり・健康づくりの2つを審議テーマ

とすることに決定し、おのおの専門部会を立ち上げ今日に至ったということでご理解いただきたいと思います。

それについては、この2つの選択は大変よかったという意見がありました。そして「住む」から「暮らす」への展開がよかったと評価を受けておりますが、一方、委員の会議への理解度や事務局のかかわり方にはやや疑義があったのではないのでしょうかという意見がございました。

次に、26ページの3、全体会の会議運営に入りたいと思います。おおよそ3カ月に1回、全体会を開催し、専門部会の進捗状況と第2期の提案への取り組み状況について報告と意見交換を行ってきたのはご承知のとおりでございます。また、平成23年8月2日の全体会では、事例として座間市の坂道マラソン大会の関係者に出席していただいて、マラソン大会のことについて紹介、説明を受けました。これは皆様ご承知だと思います。そのような全体会の運営については、他都市の事例紹介は参考になったと多くの委員の方から高い評価を受けました。反面、全体会では、きょうは大分積極的でいろいろな意見が出て活発化してよかったなど思っ拝聴しておりましたが、全体会では実質審議ができず形式的になっていないか、区民会議参与からの助言等について一工夫が必要なのではないのでしょうかという意見がありました。

27ページに入りますが、専門部会の会議運営に入らせていただきます。区民会議の委員の方はどの部会に入るかというのは自由選択、そして、幸いにもスタート段階でちょうどまっく半々に分かれたんですね。そして、審議の進行ペースも妥当だったので中身のある検討ができた、総体的にはよかったとの意見が多かったようです。

私の個人的な感想になりますけれども、大村さんにはちょっと、うんっと思われられるかもしれませんが、地参知笑部会は出席率は高かったのです。一方、出席率はともかくとして、活力部会は、逆に言えば委員の方が実際にまちを歩いて、現場を歩いて調査活動を行ってマップ作成に生かした。これは大変な労力で、私個人的には大変評価すべきことではないのかなと。それがこのようなすばらしい冊子に発展している、このように理解をしております。

改善すべき点としては、個々の専門部会が独立していることもあり、部会間の情報共有に難点があった。また、一度欠席をしますと次に出づら感じもするので、欠席委員の方へのフォローについて今後考えて、出やすいような環境整備をする必要があるのではないかと考えております。

次に、5の区民会議。これは28ページの真ん中以下です。区民会議から提案された課題解決策の取り組みを進行管理する。第3期の区民会議全体会では毎回第2期の提言、冒険遊び場やみやまえカルタ等について進捗状況の報告、意見交換を行ってきているのはご承知だと思います。評価できる点としては、第2期提案について理解できるようで、29ページに入っておりますが、適切な報告であった、もっとやってもよか

ったぐらい必要なことであるとの意見が多かったようです。逆に言えば、改善すべき点として、第3期として協力すべき報告をもっと詳しくとの意見もありました。

最後に、5、その他。区民会議の開始時期についての意見や区民会議への参加を通じて感じたことについては、評価できる点として第2期のカルタ制作、冒険遊び場の開催を通じ、区民会議を知った人がふえたのではないかと意見がある一方で、4月開催の説明です。4月は宮前区と、川崎区が4月からやっているということのようでしたが、説明があってもよかったのではないかと、区民会議の意義や理念について事前説明を委員にする必要があるとの意見が出されました。逆に言えば、ここの問題が、きょう出た皆さんのいろいろな問題の原点にあるような気がしております。どちらにしても区民会議の認知度の向上が大変必要でありまして、事前にひと工夫を要するという意見が多かったということだと思っております。

雑駁ですが、こんなところが皆さんから出たアンケートの意見でございました。雑駁なので、不足している点、あるいは気づいた点もあろうかと思えます。これからは皆様の補足説明や意見、またはこれだけは言いたいというようなことがあればという意見の場にしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

山下委員長 これも25ページ以降29ページまでですか。非常に皆さんのいい意見が書いてあります。我々もなるほどと思うことがたくさんありますが、この中でこういう意見はこうだとか、あるいは追加してこういうふうに持っていったらどうかとか、そういうことは、皆さんの委員の中でそういうお考えは何かあれば、思いついた方はどうぞご発言ください。

今までご発言のない方、どうですか。区民会議について、この2年間いろいろ運営してきましたけれども、それについてとか、あるいは、僕らはこの中でも区民会議の認知度の向上とか区民の興味を引く工夫とか、そういうものも広く必要ではないかなという気はしていますが、その辺。

恒川副委員長 区民会議は1期についてもそう、2期についてもそう、3期についてもそれなりの提案をしているように思っております。ただ、それをどのように今後発展させていくかという問題については、区民の皆さんがいかに区民会議を知って、それにどう参加するか。その仕掛けづくりを今後よく考えていかないと、だれかが区民会議をやっているんじゃないのでとどまってしまうような気がしています。認知度を高めるということは参加意識を高めるという仕掛けに発展していかないといけないのではないかなと思っております。

地参知笑の問題についても、これは何ページでしたか。コンテンツがいろいろ書いてありました。いろいろな意見がたくさん出ましたけれども、結局そういう既定の枠で考えるより、フレッシュな感覚で人を養成して、フレッシュな感覚での目線で冊子をつくっていく仕掛けをやっていくことによって、少しずつでも区民の方に理解して

いただく。そういう意味では、活力づくり部会の坂道のマップは、恐らく相当数出るとは思いますが、こういうことを1つずつ広めていくということが区民会議の役割ではないのかなと感じております。

佐藤委員 第2期、第3期と続けさせていただいて思ったことは、私は第2期は公募で入りまして、第3期は区長推薦ということでやらせていただきましたので、団体推薦の方たちのお気持ちが聞きたいなといつも常々思っていました。団体推薦で来て結局フィードバックができていないというのが、第2期も第3期も感じ、団体で推薦で来ているのだけれども、そこに戻して、区民会議の波及効果が結果、得られていないというふうに私は思っていますが、こちら辺について第4期以降、ちょっと何かうまく機能するような形で行ったらいいのではないかなと思います。自分が違うので、どんなふうに声をかけられて、団体から選ばれて来ているのかがわかりません。波及するために団体推薦というところもあるかと思うので、もうちょっと各団体と区民会議をうまく連携して動いていけるようにしていただけたらなと思っています。

みんなが首をかしげているのは、私の言いたいことがうまく伝わっていないのかもしれない。

豊島委員 では、例えば、団体に帰って区民会議で話し合ったことを報告するとか。

佐藤委員 そうですね。でなければ提案ができた後にご協力いただくとか。

豊島委員 そういえば、それは全くしていませんね。団体に帰って、こういうことを話しているよと。そうですよ。報告すればいいんですよ。そうしたら、ああ、区民会議をやって——回覧板で回ってくるぐらいでは絶対みんな見ないですから。そう思います。

佐藤委員 よろしくお願ひします。

河井委員 2期、3期と、2期のときには提案がカルタということで、私はグリーンフォーラム21という団体の推薦で自然環境のほうでしたが、自然分野にもちょっとつながりがあったので、グリーンフォーラムの集まりがあるときには確かに話していたのですが、今度の提案に関しては本当に報告していなかったなというのが、ちょっとやっぱり何かこう離れて、かかわる部分が少なかったということで、こういうことをやっているよみたいなことは雑談では話していましたが、自分が代表で来ているからしっかり報告しなければという意識がちょっと欠けていたなどは確かに思いました。

藤田委員 おっしゃるとおり、団体推薦という立場は正直言って難しいですね。報告の機会がございますけれども、団体でやろうとしていることと私が個人的にこの会議の席上で言っていることとは直接リンクしておりませんし、また、自分の提案がそのまま通ったわけでもないの、今どういう状況にあるという報告はできますけれども、では、協力しましょうというふうに即持っていくのは非常に難しいし。そこが、要する

に団体推薦というのは、必ずしも団体をそのままその意見で引っ張っていけるという立場にはないので。そうしますと、むしろ今やっている報告は途中経過になりますのでね。今の場合ですと、3期の区民提案がなされたものが現実こういう形で実現されていますという報告をして、それに自分の団体が多少なりともサポートが可能かどうか。実際にはそういうレベルのことのほうが多くなってしまいましたね。

吉田委員 私も団体推薦で出てきておりますが、私も今、藤田委員と同じように、私どもの立場から一応いろいろなことを考えて、いろいろ意見は言いましたが、基本的には区民会議の性質上、そういう具体的なことに結びつける方向性については何とか提案していこうと思って、いろいろ考えてはいますけれども、立場上、地参知笑部会に属して、会議の性質上、こういう提案をしていく方向性をできたことを僕は非常によかったと思っています。区民会議の委員としての立場で発言していますから、私の立場の団体からの具体的なことというのは、はっきり言ってなかなか難しいんですよ。

平井委員 団体から入ってくるということで、自分の母体のところの意見を集約してやるというかわりで参加するのかなと思ったら、区民会議はそうではなく、個人的な意見という形の方向なんだなということを、今回初めて参加させていただいて、区民会議の形態として団体からの、例えばいろいろな考えを持ってきて、それぞれが話し合うという姿勢ではなかったので、報告することはできても、それを報告は、途中途中ではそれは、その地域の団体、持っている団体が協力するということはできないが、意見を聞くことはできます。実際に提言されて、区民会議に提言したことを、では、それぞれの団体がどういうかわりを持てるかなという形では呼びかけられると思います。

だから、区民会議のこの性質が、こういう形だったんだなというのは正直、2年間やってみてやっと、個人的な意見を言う形なんだなということがわかったので、それは区民会議のやり方が、これが正しいのかどうかというのはわかりませんが、団体からの意見を持って、この意見の会議という形ではスタートしていないので、ちょっと難しい。途中からはそれはもう頭から外そうと思っていました。何かかわりがあったら戻すという形でやっていました。

中村委員 文化協会から出させていただいておりますが、文化協会の理事会では、区民会議でこういうことを目標にして話し合いをしているという報告はその都度しております。文化協会も区民の方々に何か楽しんでいただく、役立っていただくという趣旨もありますし、それはこの区民会議とも一致している部分だと思いますので、双方でできることがあればということは常に考えておりましたけれども、実際はなかなかちょっと難しいかとは思っています。

恒川副委員長 ありがとうございます。

確かに、団体推薦の立場と区民会議委員の立場というのは非常に難しいと思いま

す。ざっくりばらんに言えば、団体から推薦で行っているけれども、山下委員長がよく言っているように、22万人の宮前区民の代表だよという位置づけと団体代表との位置づけ、ここら辺の接点のせめぎ合いがあるような気がします。区民会議委員については宮前区は最長4年までとかとなっているわけで、例えば川崎区ですと団体を変えれば何年もできるよとか、いろいろな仕組み、あるいは高津区ですと町内会連合会の方が結構多いだとか、いろいろな形態があるので、いわゆる宮前区らしさの区民会議で進めていけばいいのではないかなというものが最終的な私の判断でございます。

山下委員長 いろいろ考え方があろうかとは思いますが、ともかく最初の段階でここを見てみますと、逆に委員はもう少し委員としての自覚を持ってなどかということも書いてあるわけですから、我々自身の問題でもあるかなという気はしているわけです。それと、実際には案外、区民会議というものが知られてきているかなという向きもあるんです。この間、公募がありまして、実際には区民会議の委員になるにはというようなことも言われた方がいました。ただ、逆に、区民会議は何か敷居が高いのではないかと、果たして受けていいのかどうかということをおっしゃられる方もいました。

だから、ある意味では、我々委員がいろいろ考えて認知度も高めなくてはいけないし普及もしなくてはいけないし、区民の理解も得なくてはいけないし、いろいろやることがあるので、これはまだ3期ではちょっとなかなか、殊に各区でも、先ほど恒川さんが申し上げたように、いろいろ構成が違ったりしているので、それはそれなりに、宮前区は宮前区でどうしていくかということが、また必要になってくるのではないかなという気はします。これらのことを考えた上で、また先ほど申し上げたように、区長様への提案にまとめていきたいと考えております。

(2)宮前区区民会議フォーラムについて

山下委員長 時間も押しましたので次の議題に行きたいと思いますが、あと、3月24日の区民会議フォーラム、これが実質的な我々の第3期の区民会議の最後になりますけれども、この区民会議フォーラムにつきまして、この流れを取りまとめさせていただくことにしたいと思っております。

それでは次に、議事(2)の宮前区区民会議フォーラムについてに移ります。資料2のフォーラムの案、先月のそれぞれの各部会で意見を取りまとめましたが、それを修正した経過があります。

では、直本副委員長から説明をお願いします。

直本副委員長 それでは、区民会議フォーラムについて説明をさせていただきます。

資料2をごらんいただきたいと思っております。1ページ、2ページとわたっておりますが、2ページのほうが全体的にわかりやすいかと思っておりますので、2ページ目のスケジ

ユールをごらんいただきたいと思います。

区民会議の委員さんは12時40分に集まっていたきまして、いろいろな準備を行います。1時30分開会で、区長のあいさつ、流れの説明等が行われました後、アトラクションが1つございます。その後、区民会議からの報告、事例紹介、意見交換という順序で進んでいくというふうに予定いたしております。

アトラクションですが、今回、落語ということで、「古典落語と長屋の暮らし」ということで、喜楽亭笑吉さんとおっしゃる方が出演をしていただけるということで、楽しみにいたしております。それが約15分程度で、13時50分から区民会議の仕組みですとか提案の説明を行います。プロジェクター等を使いまして約25分程度。残り15分程度で会場との質疑応答で、全体で約40分を予定いたしております。2時30分ぐらいになりますと、ここで休憩タイムを取り入れてございます。この休憩は15分ですが、この間に、ティータイムでお茶も用意してございますが、先ほどから出ております2期の提案のカルタでございまして、ミニ「みやまえカルタ大会」ということで、これは区民会議委員だけではなくて、当日ご出席の皆様全員含めてご参加をお願いして行いたいというふうに計画をいたしております。

詳細については、実際にどんな形でやるのかということにつきましては、まだ私もよく承知しておりませんので、もう既にわかっているという方がいらっしゃいましたら、後ほどまた係の方から説明をお願いしたいと思っております。

その15分の休憩を挟みまして、今度は45分から事例発表で、35分程度事例発表を計画いたしております。この事例発表につきましては、1ページにお2人の方のご紹介をしてございます。1人はタウンニュース川崎支社長の原田一樹様で、これは先ほど地参知笑部会でみやまえ情報サポーターズの説明がございましたが、そこの講師もお願いしている方でございます。その方に「タウン紙記者が語る宮前区の魅力」ということで、平素の活動を通じていろいろお感じになったこととお話しいただく予定をいたしております。

それからもう一方、ひまわりサロン実行委員長の齊藤喜信様。これは、東日本大震災の被災者の方が、宮前区内に多数の方がお移りになったということで、それに関連いたしましての立ち上げから現在までの経過、あるいは被災者への支援ということで、緊急事態でのコミュニティのあり方等についてもお話が聞けるのではないかなということで、約25分を予定しております。

それを踏まえまして、その後に意見交換で、これは40分を予定しております。コーディネーターには佐谷先生をお願いしております。事例発表されました原田さん、齊藤さんに加えまして、今回の区民会議の部会長であります佐藤部会長と持田部会長もメンバーということで、ここに入っていたきまして、各メンバーの方からいろいろな意見発表をお願いするというので、メンバーによる意見交換、さらに会場全体

を踏まえての質疑応答といった形でコーディネーターの方にまとめていただく予定をいたしております。意見交換が約40分、会場との質疑応答を10分、事例発表の部分が約85分ということで予定をしております。

最後になりまして、フォーラムは委員長総括という形で4時10分を閉会としております。

日程が、前回の区民全体会合のときは何かあいまいな形で言うておりましたが、これは3月24日の土曜日ということで確定しておりますので、区民会議の委員さんにつきましては、下の6の役割分担のところそれぞれ役割が書いてございます。会場設営、受付、撤収につきましては区民会議の委員さんが全員協力して行う。その後につきまして、部分的なところにつきましてはそれぞれ役割の責任の委員さんを決めてございますので、その委員さんの指示のもとに動いていただきたいと思います。

各委員さんには当日の動きにつきましては資料をお手元に届けてございますので、それを見ていただきまして、当日、12時40分までに早く食事を済ませてお集まりいただきまして、詳細の打ち合わせはしたいと思っておりますので、ご了解をいただきたいと思います。

当日の区民会議フォーラムの参加者でございますが、これにつきましては、できればそれぞれの、先ほどから区民会議の知名度ですとか理解度とか、いろいろな問題が出ておりますが、区民会議の委員さんが積極的に自分の所属している団体ですとか、お知り合いの方ですとかに声をかけていただきまして、お一人でも参加をお願いするといったような形で、当日できるだけ多くの方のご参加が得られるようにご協力を特別にお願いしたいと思いますので、その点よろしくお願いいたします。

山下委員長 ありがとうございます。区民会議フォーラムについて何か質問、補足することはございましょうか。

豊島委員 動員のノルマはないですか。

山下委員長 とにかくお願いですが、1人の委員で少なくとも1名以上はだれか連れてきてください。

豊島委員 昨年度も決めましたけれども、3・11でなくなりました。だから、1名でも2名でも。わかりました。

山下委員長 実際にはもう、一人でも多く連れてこられる方も、何人でも結構なわけで、実際には声をかければ皆様だったら相当連れてこられるのではないかなという気はしていますけれども、とにかく区民会議の認知度の向上、区民に広くわかってもらえる、そういうことであれば、この区民会議フォーラムに、ぜひ皆さん多数出席していただく、一般の方が出席していただくと。そういうことも必要だと思いますので、ぜひたくさん声をかけていただく。来られる、来られないは、もうその人の事情ですから、できれば連れてきていただくということが大事ではないかなと思っております。

いろいろ役割をやっていただいているわけですがけれども、たしかティータイムを間にとるといふ、その辺のご準備はいかがでしょうか。

河井委員 ティータイムですがけれども、地産地消ということで、小泉農園のわがままいちごをお願いしました。お兄さん、お兄さんと呼んでいますけれども、本当は地参知笑部会に小泉委員がいましたが、忙しくてほとんど参加できないという中でお話をしましたら、イチゴを前日にとりに行くことになりました。予算がないと言いましたら、かなり格安に用意してもらえることになりました。

それから、去年は考えていましたけれども流れて、私がたくさん食べてしまいました。駿河屋のココア甘納豆を用意して、あと、飲み物は、これも地参知笑部会でコミュニティガーデンというところで実際にハーブを育てていますけれども、レモングラスのハーブティーを用意しようかと思っています。よろしくお祈りします。

山下委員長 実際には今、河井委員から説明がありましたように、フォーラムを聞いていただくのはいいですがけれども、いろいろお土産がついておまして、そういうものというのは非常にまずいですがけれども、ぜひ、そういうことも言って参加者を募っていただければありがたいなと思っています。

実際には去年もたしかフォーラムで随分準備しました。ところが、地震がありまして流れてしまいました。それが非常に残念に思っています。ですから、ことしは久しぶりにフォーラムをやりますので、ぜひご参加をお願いしたいと思っています。

平井委員 カルタは。

山下委員長 カルタのほうはどなたかご説明いただけるのでしょうか。

持田委員 カルタですが、当日、カルタの実行委員の方にもお手伝いをさせていただいて、約15分、時間があれば小さなカルタを使ってできるかなとは思っています。当日、いろいろな中学校区のカルタを入れてやりたいと思っています。今回は大人の方の参加ですので、子どもたちにしっかりとルールを守ってやるようにという話をしていますので、子どもたちの手本になるように、大人の方にはルールにのっとって楽しんでいただければと思っています。

それと、カルタの人気投票をという話があります。案ですが、フォーラムの始まる前にカルタを展示しておきます。それを見ていただいて、そこと、あと休憩中にこのカルタいいねというものがあったら、これに1票ということで投票していただけたらということで、今、案が出ております。

実を言いますと、今、各中学校区のものができ上がって、宮前区のカルタの選考に入っていますが、これは大変四苦八苦しています。ここを選んだらここを選ばないわけにいかないだろうとか、実を言うと、坂道があるけれども、坂道を全部選んだら坂道カルタになっちゃうとか、いろいろなことがあります。そこで、皆さんのお知恵を拝借というか、人気投票させていただいて少しでも選考の参考にさせていただいて

ればということで、させていただきます。よろしくお願いいたします。

山下委員長 きょうカルタについては別に説明していただくことになっていたと思うので、またそのとき詳しく説明してください。

要するに、このフォーラムについては、今のようにカルタ並びにティータイムをあわせて準備していますので、その辺の説明もいただきましたので、この辺で、このフォーラムについての議事は終えたいと思います。

3 その他

山下委員長 議事は終えたところで、先ほど申し上げたように、冒険遊び場並びにカルタについて今の進行状況をご説明いただきたいと思います。まず、久保委員から冒険遊び場の説明についてお願いしたいと思います。

久保委員 45ページと46ページを開いていただければと思います。

前回、前半の10月、区民祭までは報告したと思います。

今後の予定ですけれども、今、宮崎第1公園と土橋1丁目公園に今年度中に冒険遊び場が2つ立ち上がって、有馬のポレポレさんと合わせて3つ立ち上がる予定になっています。もう1つということで、菅生緑地で区民祭のときに出張遊び場をやったこともありまして、菅生のほうにということで、3月25日に、菅生こども文化センター内にプレーパークがありますけれども、そこで出張遊び場をやろうということで、そこを選んだ理由というのも、その周りにお父さんの会があるんですね。そのお父さんの会を巻き込んで、ちょっとそこで冒険遊び場をやって担い手になってもらえたらということで話し合っています。

3月25日に菅生こ文の中で出張冒険遊び場をやりますけれども、その前の週に、こ文の中にお父さんたちが一緒にすごい塔を建てるというようなことも計画されているみたいです。そういうこともありまして、事前にもう一度菅生あたりで講習会ができないかということで、こちらは子育て中の母親を中心に対象として考えているんですけれども、今月の末、2月29日に冒険遊び場のミニ講座を行います。そこと3月の出張遊び場が結びついていくという形です。

3月7日の冒険遊び場ブラッシュアップは土橋1丁目公園で行うんですけれども、今度新しく立ち上がる冒険遊び場は、やはり地域のコミュニティづくりというのも提案の中に入っていたと思いますけれども、その中で地域の冒険遊び場に興味がある方も今回参加してくれることになりまして、前回、担い手と、あとサポーターみたいなこともあったと思いますが、サポーターの育成みたいなものにつながるような企画になっています。

今回の今年度の事例を受けて、来年度も同じようなスタイルでいく予定になってい

まして、冒険遊び場支援委員会の総会を5月15日に行いまして、そこで今年度の活動報告と来年度の活動予定を発表するような形になります。6月23日に冒険遊び場シンポジウムを開催しまして、やはりとにかく知ってもらおうということをやりました。その後、区民祭の出張遊び場で、また、今回、宮前市民館で10回の講座を行いまして担い手づくりを育成しましたけれども、今回は菅生地区、菅生分館を軸に10回ぐらいの講座をやりました、またブラッシュアップということで、地域のサポーターの掘り起こしですとか、そういう形で続けていきたいということと、あと、実際に冒険遊び場の公園、グループが3団体ふえましたので、今度はそちらのネットワークづくりも課題としてやっていきたいと思っています。

山下委員長 どうもありがとうございました。

それでは、次へ移りたいと思います。

河井委員 よろしくお願ひします。

報告書の49ページになります。みやまえカルタをつくろうということで、地域のカルタ、このような箱とジャンボカルタは前回ご紹介したと思いますけれども、ちょうどこの例が出ていますのが「ぬくもりを 感じて味わう わがままイチゴ」、向丘地区のカルタになっています。前回、宮前区民祭まではご説明したと思いますが、今年度に入りましては、ここはちょっと入っていませんけれども、1月のお正月に有馬小学校のほうでしたかね。ジャンボカルタを使いまして、昔ながらの遊びということで大会をやりました、とても好評だったようです。

それから、鷺沼小、西有馬小は授業としてやりました。区民会議の委員と、私も西有馬小は行きましたけれども、カルタの実行委員と区役所の企画課の担当者が一緒に授業のお手伝いということで参加してきました。西有馬小のカルタのほうでは1年生と3年生、特に3年生は授業としてカルタづくりをやっているということで、読み札の内容に関しては、1年生ではようやく平仮名を読めるという段階ですので、大変な授業にはなっていましたけれども楽しいことは楽しい。ここをきっかけに何とかしてほしいという感じでしたけれども、3年生ぐらいになりますと、もうカルタをしながら、あっ、どこどこの、これは知っている場所だとか、そういったものも含めての授業が取り組められているという感じで、これからもとても有意義につながるなと思いました。

実際にこのカルタだけではなくて、では、自分たちの学校のカルタをつくろうとか、自分たちの周りの植物とか、そういったものでカルタをつくってみたいとか、そういうふうにも発展することができるということを先生もとても喜んでいました。

あと、ラブみやまえカルタ大会ですけれども、これは先日のまちづくり協議会のラブみやまえのところで、図書館のちょうど前のホールで、そこにクッションのマットを敷きましてジャンボカルタ大会をしました。小学生対象ということにしましたけれ

ども、ちょっと人出が、子どもたちが少なかったので、平仮名を読めればいいよということで3歳ぐらいの子からも一生懸命参加しまして、とても素直に楽しくやるんですね。同時になったらじゃんけんだよと言うと、3歳ぐらいの子も一生懸命じゃんけんをして、それ自体も楽しむというような形でやっていました。

現在ですけれども、先ほど言いましたように、みやまえカルタ、全体のカルタですね。今回つくらなかった野川地区は既に野川カルタがありましたけれども、それも含めて8中学校区から選抜をしながら、全体のみやまえカルタを30周年に向けて制作していくという段階ですけれども、そこからすべてを選ぶというわけにはいかずに、例えば宮前区の花のコスモスですとか、宮前区全体の句もある程度は制作をしないとバランスがとれないということもありますので、ただ選ぶのではなく、制作する部分もプラスアルファになっていくかと思います。

制作の流れですけれども、展示スケジュールが下に載っていますけれども、その地域のカルタを区内の施設に展示しながら、ホームページにも掲載して、市民の意見を取り入れながら、カルタの実行委員もかなり頭を悩ませながら選ぶというのは、とても難しいところがありますけれども、何とか間に合わせて完成を目指しているところです。

それからもう1つ、あと、このカルタは小学生を対象としたような内容ではつくっていますけれども、配付が小学校、中学校、こども文化センターだけなのです。自治会には配付されていないのです。でも、ぜひ老人会とか、子ども会とか、そういったところでも利用していただきたいなというところの、その宣伝が足りないために、自治会に関しては、町内会館とかそういうところには、この説明のものをカラーコピーして展示してもらいたいなという方法を今考えております。

貸し出しがありますので、自治会なり、いろいろな団体で使いたいという場合には、宮前区の企画課に言っていただければ貸し出しができますので、ぜひどんどん使っていただければと思います。

山下委員長 どうもありがとうございました。

カルタが普及していけばよろしいかなと思います。自治会館や何かがあるところにそういうものを掲出してもよろしいのではないかと思います。そういうことは自治会のほうは恐らくできると思いますので、ぜひそういう方向で進んでいてもらいたいと思います。

1つ追加してこちらから申し上げますと、ここの資料1でつくりました、先ほどから何回も申し上げているけれども、区民会議報告書、これは案となっておりますけれども、実際には、これをきょうの議論を踏まえまして企画部会でさらに微調整しまして、その後、3月中旬に区長にお渡ししたい、そういう手順になっておりますから、よろしく願いいたします。

次に進んでいきます。第1期区民会議で公園を知ってもらおうという提案がありました。公園内に掲示板をつくるとか、そういうことの提案がありました。これの設置について企画課長から説明いただければありがたいと思います。

事務局（有山） 前のページですが、47ページをお開きいただいて、「公園を知ってもらおう！～公園内に掲示板などを設置～」ですが、現在も宮前区地域課題対応事業で、公園の魅力アピール事業として行っています。これは冒険遊び場と一緒に、公園を活用した地域コミュニティの活性化ということをしています。冒険遊び場のほうは目立っていますけれども、こっちは地味なほうで余り目立っていませんが。実際、区が公園に情報発信のために掲示板を設置しまして、公園を管理している公園管理運営協議会がそれを管理するという形で行っています。

当初、22年度ですが、これを行うに当たってアンケートを実施しました。アンケートを実施した結果、半々ぐらいで、設置したらよいが29、いいえが22でしたが、自由記入、はいというのが、活動を多くの人に知ってもらえるからと、近隣の方々に広報できるとか、そういうことでした。いいえというのは、公園の一角に既に町内会の掲示板があるとか、公園の形状から設置が不向き、あと、公園でイベントなどをやると住民への騒音等、あと、大きなイベントは自治会のお祭りでもう十分だということ、自治会の掲示板、回覧板で十分周知されているということがございました。

そのアンケートの結果を見まして、22年度につきましては、実際、活動している団体数が多い公園3公園を選定しまして行いました。48ページの上のほうに出ていますが、初山第2公園、宮崎第3公園、鷲ヶ峰公園に設置しまして、設置に関する報告書をいただきまして、その下の(1)で活用状況とございますが、宮崎第3公園がトータルで4、4、2で年間10の掲示物を掲示した。初山で5、鷲ヶ峰公園で11という形でした。情報発信効果については、掲示板は見てもらえている、掲示物を見て参加するようになった人がいるということでした。維持管理もスムーズにできた。そのほかでは、公園体操については長期間のため立て看板を設置し、掲示物は張らなかった。自治会の定例行事はチラシを各戸配布しており、これも掲示物は張らなかったというものでございました。効果があつたのか、この関係だとわかりません。

今回、今年度、23年度も情報発信の効果についてかなり評価が分かれるので、今年度もとりあえず試験的に実施しようということで行いましたが、下に向ヶ丘公園、平4丁目公園、ほかの公園にも行きましたが、管理とか、いろいろ問題がありまして必要がないと言われまして、2カ所設置しました。

今後、22年度は試験的に3、23年度が2つ。区民会議の提案でございますので、来年度、活用状況に関する報告書を見て、公園管理協議の担当者とヒアリングをやりながら、本格実施に移行するかどうか、今判断しているところでございます。

山下委員長 どうもありがとうございました。区民会議の提言でもありますので、ぜひご

協力をお願いしたいと思います。

次に、この席をかりまして、その他の事務連絡について事務局からお願いしたいと思います。

事務局（有山） それでは、参考資料で、平成24年度宮前区地域課題対応事業一覧表。A3の横の用紙ですが、今、議会でこの予算をやっているわけですが、時間もないので代表的なものだけ、新規事業だけ説明いたします。

1 ページ目の一番下、地域資源活用事業の8、宮前区誕生30周年記念音楽推進事業。ことしの4月1日に創立記念式典やコンサートを行って、それから、今回30周年ということで、今、毎月ロビーコンサートをやっていますが、毎月1回、区内の区役所と出張所を除いた施設でもコンサートを実施する予定で考えています。ロビーコンサートの出前コンサートみたいなものを考えております。

ページをめくっていただきまして、地域コミュニティ活性化推進事業の12、宮前区誕生30周年まつり開催事業。これは誕生30周年記念式典に合わせて地域コミュニティの創造や育成のきっかけ。昨年までの、みやまえふれあいフェスタの30周年バージョンとさせていただければ、13が宮前区誕生30周年記念事業。これが、この案にも出ているメローとコスミン、そういうキャラクターを使って30周年事業を盛り上げます。協賛事業として、いろいろな団体でイベントがあると思いますが、そこに協賛事業の申し込みをしていただければ、このキャラクターを使っていたり、区でも広報しようということを行っています。

16が、これは第3期のものですが、坂道を活かした活力づくり事業で、冊子づくり。このための予算を新規に計上しております。

地域コミュニティ活性化推進事業で、4、地域情報発信事業。これは歳時記などを、制作していますが、今回拡充ということで、今の地参知笑部会で冊子をつくりますので、そのために予算を増額しているということでございます。

説明は以上でございます。

山下委員長 ありがとうございます。

これでおおむね議事は終了しましたが、最後に区長から何かコメントはございますでしょうか。

区長 2年間にわたりまして大変ありがとうございました。3月中旬の最終の報告書を楽しみにさせていただきたいと思いますが、きょうも区民会議のあり方等を含めてかなり深いご議論をいただいたのかなと思っていますが、私も1月29日の区民会議交流会に参加しまして、各区の区民会議、それぞれやはり長く、それぞれの色があるのだなと。特に区民会議と言いながら、もうほとんど実行部隊のような活動をやっているような区民会議もございましたし、そういう意味では宮前区は1期のときからそれぞれ提言をいただいて、それを順次事業化していくということで、先ほど恒川副委員長、

山下委員長からも総括的なまとめのご意見がございましたが、そういう意味では本当に宮前区らしさということで、これまでも積み上げてきたわけですし、そういった形で今後も続けていただければいいのかなと思っております。

ただ、そのときに、「住む」から「暮らす」へといったようなキャッチフレーズを出していただいて、その中で区民会議と行政とのかかわりということでは、提言いただいて行政がすべてやるということではいかなものかということ、そういった意味では、もちろん行政は行政としてかかわっていくわけですが、できるだけ多くの方にその事業にかかわっていただくということが、これからも大事なのではないかなと思っております。そういう意味では、冒険遊び場もカルタも順次事業化が進んでいるということで、きょうも宮前平中学校の2年生3人が取材に来まして、そのときに、みやまえカルタって知っていると聞いたら、3人とも知っているということで、徐々に広がっているのかなと思っていてるところでございます。

今回の地参知笑部会のみやまえ情報サポーターズ、これは養成講座も具体的に5月から始まるということで大変楽しみにしておりますし、発想としても、もうなかなかすばらしいなと思っております。それから、区民会議交流会が終わった後、市長と一緒にりましたが、市長が、宮前区の坂道ね、ううん、なるほどということで、大変感心をしておりました。

そういったことで、今後4期に向けても課題についてご指摘をいただきましたので、それを踏まえて、スムーズにまた新しい4期のほうにバトンタッチをしていきたいということで考えているところでございます。

雑駁ですが、コメントということで、大変ありがとうございました。

山下委員長 区長、いろいろご意見いただきまして、どうもありがとうございました。

参与は最初からご出席でいらっしゃいますが、何かコメントがあればお願いしたいと思います。

竹田参与 本日は参与として参加させていただきまして、まことにありがとうございます。第3期、今回が最後ということで、皆様方、2年間もまことにお疲れさまでございました。

私は昨年から参加をさせていただきまして、全体会、第5回、6回、7回と3回参加をさせていただきまして、正直なところ非常に毎回楽しみに参加をさせていただいております。というのも、国会であれば対象が国、県議会であれば県、市議会であれば市、公式的な最もミクロな単位の区民会議、よりよい宮前区をつくっていくということを前提にしての、本当にきめ細やかな地域のことが話し合われる、委員の方々からも率直な意見が飛び交う、その区民会議、本当に私もいろいろと学ばせていただくことが多く、楽しみに参加をさせていただいているところでございます。

活力づくり部会でみやまえ坂道ウォークという形あるものがほぼ完成してございま

して、これがこれから宮前区民の方々に活用されて、健康づくりやトレーニングのため、また、地域をよりよくするために活用されていくことを非常に期待させていただいております。

1つ意見として、もう部会等でも出ているかもしれませんが、みやまえカルタが学校教育にも生かされているということなので、ぜひともこのみやまえ坂道ウォークも学校教育で子どもたちにも活用していただいて、より地域を、坂道を愛していただくように使っていただくことが望ましいのかなと1つ思います。地参知笑部会でも、これから地域コミュニティの参加を促す雑誌が完成されていくということでございますが、やはり目玉となるのはソーシャルメディアを大いに活用して、メディアミックスをねらって、区内はもちろん区外にも多くの情報を発信していくことが期待されるところでございますので、こちらのほうも今後大いに私自身も期待をしているところでございます。

また1つ意見ではございますが、これからサポーターズが結成されて形となっていくわけではございますが、もう雑誌の発行の日にちが決まっているということであれば、それを大々的に公表して、つくっていく過程も、ぜひソーシャルメディアを活用して発信していけば、多くの注目を引くのではないかと考えております。

結びになりますが、区民会議のあり方につきましては川崎市議会でも多々議論がございまして、やはり大きな問題となるのは、周知、認知度、今後の発展でございまして、議会のほうでもソーシャルメディア、ツイッターやユーストリームを活用して大いに発信していくということをやっていく、検討すると言っているにもかかわらず、いまだ実行していない状況なので、これからその点も実行していただくように追及していきたいと思っております。私も今後とも参与として微力ながら力にならさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

山下委員長 どうもありがとうございました。ご意見、ご助言いただきまして本当にありがとうございます。

持田参与は後からお見えで何かございますでしょうか。

持田参与 大変遅参してまいりましたことを、まずおわび申し上げたいと思っております。そして、3期の皆さん、2年間これまでお進めいただきましてまことにありがとうございます。また、ご苦労さまでございました。いよいよ大詰めというところかなと思っております。

私は竹田参与のように多くを語らせていただければよろしいのですが、本当に場面場面に少しお世話になったというところでありますので、多くは語れないのであります。

1点、直接こういう場面とはつながらないかなと思っておりますけれども、実は、私ども大都市圏のある12都道府県議長会というものがあります。秋に横浜で、神奈川県が幹

事県ということで、私が座長をさせていただきながら、いろいろなご意見を取りまとめさせていただいて、それを国に要望なりを何らかの形で伝えようということで、毎回場所は変わるのでありますけれども、昨年ちょうど3・11がございました。そこでいろいろな補償問題とか、特に観光等々では大きな落ち込みが、外国から来るということでは、東日本ということ、日本の国内では東日本ということで、東北でああいうことがあった。外国から見ますと日本でああいうことがあったということで、どうしても観光客も減ってしまうということでありました。福島以南の栃木と茨城と群馬の3県は、観光については手厚いとまでは言えませんが、国内ではある一定の補償があったということでありました。さらに一步南になりますと千葉県がございしますが、千葉県はそういう厚い手だてはなかったということで、千葉の議長さんからもその場で発言があり、同じような手だてがあつてはかりではないかということでありました。

とうとう私なんかもそういった意見をまとめさせていただいて、通常ですと文書で各省庁に送ってしまいます。ですけれども、私は神奈川でしたから国とは近いということで、文書を持ちまして現実を口頭で少し話をさせていただこうと思ひまして、国へ参りました。官僚の方でありましたけれども、官僚の方ですから、逆に内容をよくご理解いただいております、そういうことが功を奏して、千葉に対しても少し同じような補償がということでした。

神奈川もお茶の問題がそうでありました。足柄茶でありますね。ですけれども、足柄茶すべてかということ、これはまた風評で広がってしまひまして、すべてではないんですが、足柄茶ということで、もうすべてになってしまう。ただ、ベクレルが低い部分については使える部分が当然ありますから、これは今度、鹿児島産のお茶とブレンドをして足柄風という、名前を変えながら利活用いただくということでありましたけれども、ところが、もう足柄という名称がつくだけでだめになってしまう。こういう部分の補償等々もございましたので、出向かせていただいたわけでありましてけれども、やはり行動していく、何かを議論していくということは、私は本当に大切だと思っております。

ですから、皆様方がこうしていろいろご議論を進めていただきながら、日ごろ気づかない部分、皆様方はいろいろなジャンルでご活躍でありますから、そういった点をご提示いただきながら全体として取りまとめていただいておりますことに、私はすばらしさを感じさせていただきました。

同時にまた、3・11がございまして、今、国を挙げてしっかりと何かをつくり、また上げていかななくてはいけない、修正していかななくてはいけない、こういう部分が多々ございます。それぞれのジャンルに入ったり、あるいはそれらの業界団体に入りますと、競争ということでいろいろありますけれども、ここ数年は競争という字を共

創に変えていただいて、一生懸命みんなで作る力をお出しいただきながら、それぞれが発揮されて、また一つの新たな形ができていくのかなと思っております。

山下委員長さんのもと、それぞれ皆様方のご努力いただきましたことに感謝をさせていただきますと同時に、また皆様方のそうした取りまとめでいただいたものを、私どももそれぞれの議会で生かしてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いさせていただきます、長くなってしまいました。お礼等を兼ねさせていただきますのごあいさつとさせていただきます。ありがとうございます。

山下委員長 どうもありがとうございました。いろいろ参考になるお話をいただきまして、本当にありがとうございました。

議事は以上でございます。委員の方は本当に2年間ありがとうございました。ただ、これで終わったということではなく、やはり次のフォーラムもございますので、ぜひそこまでひとつ頑張っていたいただきたいと思いますと思っております。

これまで行政の方、あるいは参与の方にも協働という立場でいろいろやっていただき、また、区民会議も大体はそういう方向でやるものだと考えております。委員の方も頑張るし、ひとついろいろこれからもよろしく願いしたいと思っております。2年間にわたり本当にありがとうございました。（拍手）

これからの進行は副区長にお願いしたいと思います。

4 閉 会

司会（板橋） 山下委員長、どうもありがとうございました。繰り返しになりますけれども、これまで2年間にわたりまして皆様方に活発なご議論をいただき、また、提案もいただくということでございますので、本当にありがとうございました。

これをもちまして宮前区区民会議第7回全体会を閉じさせていただきます。本当にどうもありがとうございました。ご苦労さまでした。

午後8時5分閉会